

1. 文学部

(1) 文学部の教育目的と特徴	1-2
(2) 「教育の水準」の分析	1-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	1-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	1-10
【参考】データ分析集 指標一覧	1-13

(1) 文学部の教育目的と特徴

本文学部は、人間の諸活動の原理的な解明とその諸活動が有する価値を問い直すことを通じて、行動科学を含む広義の人文学に関わる学術を教授することを教育理念の根幹としている。そして、この理念に基づき、広い教養と深い専門知識を具え、人類の文化の継承と調和ある発展に寄与するとともに、倫理性にも優れた学生を育成することを教育目的とする。

その目的を達成するため、人文学を中心とした幅広い科目の履修と「対話を根幹とした自学自習」の理念に基づく専修での学習・修練を経て、人文学に関する幅広い基礎的学識と特定の分野に関する深い理解を身につけることをめざす。その際には、特に以下の四点を重視する。

- (1) 人文学に関わる基礎的学識を有し、その専門領域としての諸学問について深い理解力を持ち、また学修成果を卒業論文として集大成できる問題探求能力、分析能力、表現能力を身につけていること。
- (2) 人文学に関わる課題について、問題を発見し解決する力を具え、創造的に取り組むことができること。
- (3) 人文学の意義と重要性を理解し、強固な責任感と高い倫理性をもって、その発展に貢献することができること。
- (4) 自由で批判的な精神と良識、および多様な文化に対する理解能力と優れたコミュニケーション能力を具え、人類が直面する課題を直視し、社会からの要請に対して自らが修得した知識と能力がどのように生かせるのかを常に自覚し、問題の解決に積極的に寄与することができる。

なお、毎年の入学者は全国のほぼすべての都道府県の出身者が含まれているだけでなく、国費留学生も1年次から受け入れている。多様な背景を持つ学生が確保されているこの状況は、学生が世界の多様性を認識し、そして尊重できるようになる点で望ましいと考えられる。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5201-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5201-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 5201-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 なし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文学部は従来5専攻31専修体制であったが、メディアの高速化・グローバル化の著しい現代社会の多様な問題や現象について専門的知見を基礎として考察する必要があるとの認識から組織再編を進め、2018年度に情報・史料学専修と二十世紀学専修を統合し、新たにメディア文化学専修を設置した。従来の人文・社会科学が主に取り扱ってきた伝統的メディアである文書資料に加えて、現代の新しいメディア、たとえば、映像やマンガ・アニメ、ブログ、SNSなどを資料として取り扱う新たな方法論により、現代社会の多様な問題や現象を分析する力を身に付け、新たな時代に対応する高度の専門的知見を基礎として、メディア産業・IT産業・教育・行政などの様々な分野で活躍するための能力を涵養することが期待される。[3.1]

京都大学文学部 教育活動の状況

- ・ 別添資料 5201-i3-2_京都大学大学院文学研究科・文学部案内（2019年度）【抜粋】

○ 本学の教養・共通教育の企画及び実施を担う国際高等教育院では、2016年度から、科目群と科目の見直し、英語科目の見直し、少人数教育と学際教育の充実、時間割のブロック化を実施し、社会の変容や国際化の進展、高大接続、専門教育との接続等に対応した。具体的には、科目群と科目に関しては、ほぼ全ての分野について開講科目を見直すとともに、科目を区分する科目群を従来の5群から8群に再編した。また、1年次の英語教育を組織的に実施、運営できるよう強化し、2年次以降には学生の英語力と幅広い興味関心に対応できる実践的な英語科目を用意した。さらに、従来開講していたポケット・ゼミ（少人数ゼミ）をILASセミナーとしてその開講数を大幅に増加させるとともに、専門を異にする複数の教員が授業を担当する統合科目を新規に開講した。加えて、時間割を一新し、全学生を主として学部又は学科を単位にしてブロックに区別して、それぞれのクラス指定科目の曜時限が重複しないようにするとともに、選択科目を配置する曜時限を確保してそれとも重複しないようにし、学生の選択肢を拡大させた。

これらにより、教養・共通教育を充実させ、学生の卒業時アンケート（2018年3月実施）では、「専門以外の幅広い知識・教養」、「専門分野で基礎となる学力」、「将来の研究分野や進路を決める手がかり」のいずれの項目でも70～80%の肯定的回答が得られた。[3.4]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 5201-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 5201-i4-2～3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 5201-i4-4)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 5201-i4-5)
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 専修への分属（3回生前期）を決めようとしている1、2回生の学生を対象にした導入的専門科目として、6つの系それぞれにおいてリレー講義形式の系ゼミナールを毎年度開講している。系ゼミナールは、本学文学研究科博士後期課程を修了した若手研究者が、当該分野で研究する事の意義や楽しさを紹介し、あわせ

て研究の始め方や、当初に遭遇する困難、基本となる入門書、一次文献・二次文献の扱い方など、学生に近い立場から具体的に語りかけるとともに、学生の相談にも応える授業であり、最新の研究成果をふまえつつ、わかりやすく講義することを特徴としている。授業後に寄せられた学生の感想には、新しい視点、新しい切り口からの学問へのアプローチが刺激的であった、深く考えさせられた、学問の手法への理解が深まった、などの意見が多く、リレー講義形式の系ゼミナールの意図が十分に達成されていると言える。[4.1]

- 文学研究科・文学部が参加している京都大学アジア研究教育ユニットの行う国際連携教育プログラムの一環として、フィリピン大学における海外インターシップを実施した。半期の講義の受講と学習支援ボランティアを条件として海外研修に参加した者のうち、文学部在學生は5名（2016年度）、3名（2017年度）、5名（2018年度）、4名（2019年度）であった。[4.2]
- ・ 別添資料 5201-i4-6_京都大学アジア研究教育ユニット Web ページ/フィリピン研修報告書掲載ページ（2016～2019年度）

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5201-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5201-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 5201-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 5201-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2018年度より文学研究科・文学部の大学院生・学生のための「相談室」を開設し、臨床心理士を相談実務担当者として配置した（開室日程は毎週火曜・水曜・木曜の10-13時、14-17時）。「相談室」については新入生オリエンテーションで紹介する他、掲示板のチラシやHP、教務掛から学生宛に送付される一斉メールなどにより周知を図り、2018年12月からはTwitterアカウントを開設し、学生に相談室をより身近に感じてもらえるよう努力をしている。2018年度の学部在學生の来室者数は46人（実数）、相談件数は110件（のべ数）、2019年度の来室者数は37人（実数）、相談件数135件（のべ数）であった。「相談室」では教職員についても指導

京都大学文学部 教育活動の状況

学生に関する相談に限って対応している。2018年9月には「相談室」の相談実務担当者が「学生の視点から見た学生支援」というテーマで教職員を対象としたFD研修会を実施し、学生支援に関わる様々な問題と課題を教職員が共有する機会となった。（参加人数74名）[5.1]

- ・ 別添資料 5201-i5-5_京都大学学生総合支援センター紀要第48輯(2018-2019)【抜粋】
 - ・ 別添資料 5201-i5-6_文学研究科・文学部 HP
- 文学研究科・文学部の大学院生・学生のための研究・進路・生活上の問題を解決する一助とすべく、2009年11月に設立した「先輩相談室」を継続して開設した（開室日程は毎週月曜の12-14時、水曜の14-16時、金曜の14-16時）。相談員は文学研究科の博士後期課程を終えた若手研究者6名（2020年3月1日現在）が務め、あくまでも「先輩」の立場から相談者の研究・進路・生活上の問題に耳を傾け、必要な情報を提供するという形で運営されている。「先輩相談室」については新入生オリエンテーションで紹介する他、掲示板のチラシやHP, 教務掛から学生宛に送付される一斉メールなどにより周知を図っている。2018年度の学部在学生の来室者数は29人（実数）、相談件数は34件（のべ数）、2019年度の学部在学生の来室者数は36人（実数）、相談件数は36件（のべ数）であった。（2016、2017年度はデータなし）[5.1]
- ・ 別添資料 5201-i5-5_京都大学学生総合支援センター紀要第48輯(2018-2019)【抜粋】（再掲）
 - ・ 別添資料 5201-i5-7_先輩相談室 HP

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 5201-i6-1～2）※2019年度改訂版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5201-i6-3～4）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5201-i6-5～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- （特になし）

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5201-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
（別添資料 5201-i7-3～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文学部において独自に定めた卒業論文評価基準に基づく毎年の論文の評価結果を専修単位で検証し、検証結果を集約したものを教授会で報告し、問題意識や改善点を共有する、という PDCA サイクルを実現している。[7.2]
（別添資料 5201-i7-5）

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5201-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5201-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年の入学者は全国のほぼすべての都道府県の出身者が含まれているだけでなく、国費留学生も1年次から受け入れている。多様な背景を持つ学生が確保されているこの状況は、学生が世界の多様性を認識し、そして尊重できるようになる点で望ましいと考えられる。[[8.2]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
（別添資料 5201-iA-1）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 分野横断教育とグローバルな文脈をふまえた地域（日本および東南アジア）横断的関心とを連結させた研究指向の講義群を英語で提供する目的で 2015 年度に

京都大学文学部 教育活動の状況

設置した英語講義群 Courses on Asian and Transcultural Studies を 2016 年度以降毎年継続して提供している。2016 年度は 23 科目（受講者 34 名）、2017 年度は 23 科目（受講者 21 名）、2018 年度は 34 科目（受講者 5 名）、2019 年度は 37 科目（受講者 11 名）開講し、受講者数は延べ 71 名となっている（2019 年度末現在）。[A.1]

- ・ 別添資料 5201-iA-2_文学部 Courses on Asian and Transcultural Studies シラバス（2016～2019 年度）

- 倫理教育についての大規模公開オンライン講座（MOOC）の英語版を 2016 年度以降毎年度配信している。[A.1]
- ・ 別添資料 5201-iA-3_Kyoto University MOOCs への文学部提供科目紹介 Web ページ（2019 年度）

- 文学部では、スーパーグローバル大学創成支援事業「京都大学ジャパングートウェイ構想」の一環として、ハイデルベルク大学とストラスブール大学への学部生（2～3 回生）短期派遣を 2016 年度（テーマは「グローバリゼーションのなかのナショナルリズム」）、2017 年度（「アジアとヨーロッパにおける平和と紛争」）、2018 年度（「人文社会学はどのようにエコロジー・スタディーズに貢献できるか」）、2019 年度（「ジェンダーと性的マイノリティーを文化越境的な視点から考察する」）に実施し、現地の大学生と共同でワークショップとディスカッションを行った。[A.1]
- ・ 別添資料 5201-iA-4_ハイデルベルク大学 ストラスブール大学派遣報告書（2018～2019 年度）

- 文学研究科・文学部が参加している京都大学アジア研究教育ユニットの行う国際連携教育プログラムの一環として、フィリピン大学における海外インターンシップを実施した。半期の講義の受講と学習支援ボランティアを条件として海外研修に参加した者のうち、文学部在学学生は 5 名（2016 年度）、3 名（2017 年度）、5 名（2018 年度）、4 名（2019 年度）であった。[A.1]
- ・ 京都大学アジア研究教育ユニット Web ページ／フィリピン研修報告書掲載ページ（2016～2019 年度）（再掲）

- 文学研究科・文学部が参加している京都大学アジア研究教育ユニットは、多文化共学受入れプログラムとして「京都サマープログラム 2016」により、タイ、イ

京都大学文学部 教育活動の状況

インドネシア、シンガポール、ベトナムより、学生 18 人を短期交換留学生として受け入れた。また同ユニットは、「アセアン学生のための多文化共学短期受入れ留学プログラム」により、別添資料 5201-iA-5 の通り、タイ、インドネシア、シンガポール、ベトナム、台湾より、学生 18 人（2017 年）、19 人（2018 年）、18 人（2019 年）を短期交換留学生として受け入れた。[A. 1]

- ・ 別添資料 5201-iA-5 多文化共学受入れプログラム 2016-2019

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5201-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5201-ii1-1）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部は、退学率は1%前後という最低水準を維持しており（指標 15）、標準修業年限×1.5年での卒業率も97%前後という高水準を維持している（指標 18）。留年率は、留学や学修のための自発的な留年者が元々多い傾向にあることもあって低くはないが、低下傾向にある（指標 14）。また教員免許の合格率は100%を維持している（指標 19）。[1.1] [1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部卒業生の約4分の1が大学院に進学し、約3分の2が就職する傾向が続いている（指標 21, 22）。就職先は多様だが、近年は情報通信業が20%程度、製造業が15%程度、公務員が10%強で推移している。教員を含む「教育・学習支援業」と「学術研究、専門・技術サービス業」は、合わせて13～14%で推移している。以上の状況は、本学部卒業生が、狭義の人文科学系の枠を超えて社会的に必要とされる人材として認知されていることを物語っている（指標 24）。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5201-iiA-1～3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年3月に、当該年度の卒業生を対象にアンケートを実施している。2016年度から2018年度に実施したアンケートを集計した結果によれば、本学部で学べたこ

とに満足しているかとの問いに対して、80～90パーセントが「十分に」あるいは「それなりに」満足していると回答した。また、本学が基本的な理念として掲げている「自学自習」については、毎年約70パーセントが「十分に」あるいは「ある程度」身についたと回答している。なお改善の余地はあるものの、常に7割以上の学生が、本学および本学部の教育理念に沿う学修成果を達成したことに満足して卒業している状況が窺われる。加えて、本学部で「学んだこと、身につけたことで、今後役立つと考えられるもの」を問う質問に対する選択式の回答（複数回答可）で、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」や「一般的な教養や知識」との回答が高い割合を示していることから、本学部のディプロマ・ポリシーに掲げた教育方針が実際に成果を上げている様子を看取できる。なお、アンケート結果については、ホームページに公開するほか、教授会等で情報共有して以後の教育に活かすなどPDCAサイクルの実現に努めている。[A.1]

- ・ 別添資料 5201-iiA-1_文学部卒業生アンケート（2016年度）
- ・ 別添資料 5201-iiA-2_文学部卒業生アンケート（2017年度）
- ・ 別添資料 5201-iiA-3_文学部卒業生アンケート（2018年度）

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 5201-iiB-1～4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年、卒業後3年を経過した学部卒業生を対象に、アンケートを実施している。2016年度から2019年度に実施したアンケートを集計した結果によれば、本学部で学べたことに満足しているかとの問いに対して90パーセント以上の卒業生が「十分に」あるいは「それなりに」満足していると回答した。また、本学部での「勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質」を問う質問に対する選択式の回答（複数回答可）では、全ての年度で1位となった「一般的な教養や知識」に次いで、「外国語の能力」、「自学自習の姿勢」、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」との回答が高い割合を示しており、これらを重視する本学部の教育方針が、社会に出た学部卒業生からも高く評価されていることが窺われる。なお、アンケート結果については、ホームページに公開するほか、教授会等で情報共有して以後の教育に活かすなどPDCAサイクルの実現に努めている。[B.1]
- ・ 別添資料 5201-iiB-1_文学部卒業後・修了後3年次アンケート（2016年度実施）

京都大学文学部 教育成果の状況

- ・ 別添資料 5201-iiB-2_文学部卒業後・修了後3年次アンケート (2017年度実施)
- ・ 別添資料 5201-iiB-3_文学部卒業後・修了後3年次アンケート (2018年度実施)

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料 (別添資料 5201-iiC-1~4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年、文学部・文学研究科主催の在学生向けキャリアガイダンスに参加する企業・団体の担当者に面接調査を実施している。面接調査の際に寄せられたコメントでは、本学部卒業生について、「物事の本質を見抜こうとする姿勢」を有する (2016年度)、「後輩には優しく上司にははっきりものを言い、ヒット作を生み出している」(2017年度)、「自分の世界があり、まわりにひきずられない」(2018年度)、「専門分野をつきつめて、それを消化することができる人が多い」(2019年度)、「および「理解力、展開力に優れる」(同)など、肯定的な評価が与えられている。アンケート結果は、その性質上ホームページへの公開は行っていないが、教授会等で情報共有して以後の教育に活かすなど PDCA サイクルの実現に努めている。[C.1]
- ・ 別添資料 5201-iiC-1_文学部卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2016年度)
- ・ 別添資料 5201-iiC-2_文学部卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2017年度)
- ・ 別添資料 5201-iiC-3_文学部卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2018年度)
- ・ 別添資料 5201-iiC-4_文学部卒業生採用企業への聞き取り調査結果(2019年度)

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。